

事例5 探究的な学習【現代的な課題】 SDGsを意識した福祉教育の事例

- 学年 第4学年
- 探究課題 身近な高齢者や障害のある人々の暮らしを支える仕組みと人々（福祉）
- 主な事例のポイント ※それぞれ実践例にて紹介
 - ①体験活動の充実による多角的な視点の習熟を行う。
 - ②福祉教育におけるSDGsを取り入れた単元計画を行う。
 - ③ICTを活用し、いつでもどこでも確認できる思いやりマップ作りを行う。

1 単元名 広げよう こころの輪 ～自分が気付けば 世界は変わる！～

2 単元の目標

高齢者や障害のある人々との交流や体験活動・フィールドワークを通して、地域の人々が互いに支え合っていることに気付き、地域で生活する上で課題となるものを見付けたり、自分にできることを考えたりするとともに、友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとする。

3 児童の実態（省略）

4 教材について

本校は開校150周年を迎え、親子だけでなくその祖父母も本校出身者が多い伝統校である。学区の近くには特別支援学校や高齢者総合福祉センターがあり、多くの高齢者が生活しているが、古くから栄えた宿場町であり、台地の縁に存在するため、道幅が狭く、急な坂道が多い地域でもある。

本単元では、まず東京パラリンピックに焦点をあて、あまりなじみのないパラスポーツに児童が興味をもてるように計画をする。その後、オリンピック競技との比較からパラリンピック独自の競技であるボッチャ体験・講話を通し、障害の種類や障害者の生活へと展開していく。その後、体験学習を取り入れたりゲストティーチャーと連携したりしながら、児童に福祉の視点を育てていく。その視点を活かして自分の町を見直すため、フィールドワークへとつなげていく。

学習の後半において、みんなにとっての住みやすい町の創造として様々な立場の人の視点で町を見つめることで、多面的・多角的によりよい町づくりについて考えることができるよう単元を構想していく。

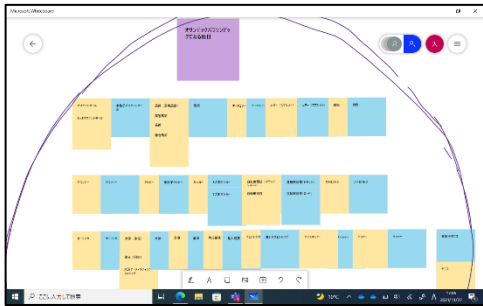
5 単元の評価規準

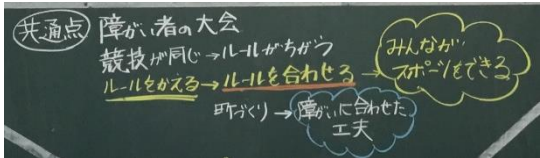
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| ①地域福祉には、高齢者や障害のある人々との交流や体験活動を通して、相手を支えようとする協力や相手に合わせた工夫が必要なことを理解している。 ②相手の立場を理解し、協力したり支援したりして、周りの人と適切に関わっている。 ③地域には障害者や高齢者など、様々な立場の人を意識した工夫や取組があることの理解は、町の仕組みと人のつながりを探究的に学習してきた成果であると気付いている。 | ①高齢者や障害のある人の立場になり、地域で生活するうえで課題となるものを見つけて解決に向けて自分にできることを考えている。 ②高齢者や障害のある人との交流や体験活動から、支え合う方法や協力するために必要な情報を収集し、解決に向けて考えている。 ③高齢者や障害のある人々について、体験活動やフィールドワークを通じて収集した情報を整理し、比較したり関連付けたりして考えている。 ④相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で、わかりやすく表現している。 | ①高齢者や障害のある人々の視点に立ち、課題解決に向け、自分自身で設定した課題に価値を見出し探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②高齢者や障害のある人々と、支え合い関わり合う体験を通して得た知識や、自分とは異なる友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③自分と地域の人々とのつながりに気付き、誰にとってもよりよい町になるように、地域の中で自分にできることを見付けようとしている。 |

6 単元の指導計画と評価計画 (70 時間)

※「課題」: 課題の設定 「情報」: 情報の収集 「整理」: 整理・分析 「表現」: まとめ・表現

| 過程 | ○学習活動 ・児童の思考 | ・指導上の留意点 ○評価 (評価方法) |
|----|---|--|
| 課題 | ○オリエンテーションをする。(1) ・福祉って何だろう。 ・車いすとか点字ブロックとか見たことあるよ。 | ・福祉には、障害者や高齢者などの種類があることを確認し、これからの学習に見通しをもつことができるようにする。 |
| 整理 | ○オリンピック・パラリンピックについて知っていることを整理する。(2) ・パラリンピックって障害のある人の大会だよね ・オリンピックについてはよく知っているけど、パラリンピックについてはあまり知らないなあ。 | ・ウェビングマップを用いて、オリンピックとパラリンピックについて知っていることを書き出すことで、パラリンピックはマップが広がらないことを確認し、課題が設定できるようにする。 ○ 図・表 ③ (発言・ウェビングマップ) |
| 課題 | 課題① パラリンピックについて調べよう | |
| 情報 | ○パラリンピックについて調べる。(3) ・パラリンピックっていつからあるのかな。 ・オリンピックのマークはよく見るけど、パラリンピックのマークは初めて見た。 ・パラリンピックの種目も結構あるんだね | ・パラリンピックの「歴史」や「マークの由来」、「競技種目」や「選手の障害の種類」等、児童の探究課題に即して、テーマを示すようにする。 |
| 整理 | ○パラリンピック新聞の割付けを考えるため、調べた情報を整理する。(1) ・すべてを書くのは無理だから、伝えたい記事に優先順位をつけよう ・国語の学習を生かして文字の大きさや写真の配置を工夫しよう | ・限られた紙面の中に、掲載すべき調査内容を選択させるために、情報量だけでなく、その情報の希少性を考えられるようにする。 編P188 指導計画作成の留意事項3) |
| 表現 | ○整理した情報をパラリンピック新聞に表現する。(2) ・伝わりやすい言葉やイラストを入れて書こう。 | ・国語科の学習と関連付けることで、見出しやリード文、写真や図などを用いて伝わりやすい新聞になるよう促していく。 ○ 図・表 ④ 図・表 ① (発言・振り返りカード) |
| 課題 | 課題② オリンピックとパラリンピックの違いを見つけよう | |
| 情報 | ○オリンピックとパラリンピックの種目やルールについて調べる。(4) ・オリンピックの方が種目数が多いね。 ・ルールは違うけど、同じ種目や似ている種目が多いよ。 | ・ICT端末の共有編集機能を用いて、オリンピックとパラリンピックの種目を協力して色違いの付箋に書き出せるようにする。 |
| 整理 | ○共通点と相違点を見付けるため、調べた内容を分類・整理する。(2) ・整理してみると、オリンピックにしかない種目は結構あるね。 ・パラリンピックにしかない種目も少しだけあるよ。 | ・前時までに作成した付箋を操作し、ベン図を用いてオリンピックにしかない種目、パラリンピックにしかない種目、どちらにもある種目に分類できるようにする。 ○ 図・表 ③ 図・表 ① (発言・ワークシート) |



| | | |
|----|--|--|
| 表現 | <ul style="list-style-type: none"> ○各大会限定の種目について、なぜ共通ではないのか考えまとめる。(2) ・オリンピックの種目は障害がある人だと危険なものもあるんだね。 ・パラリンピックの種目もルールを工夫することで増やすことができそうだ。 ・パラリンピックにしかない種目はボッチャだけなんだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックにしかない種目の特徴は考えやすい(危険、機敏な動きが必要等)のに対し、パラリンピックにしかない種目はルールすらわからないことに気付けるようにする。 |
| 課題 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 課題③ パラリンピックにしかないボッチャについて調べよう </div> | |
| 情報 | <ul style="list-style-type: none"> ○ボッチャのルールについて調べる。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・カーリングみたいだね。 ・みんなで協力することでできるスポーツなんだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人数や競技方法だけでなく、競技選手の障害の種類に注目できるよう促していく。 ・競技動画を見せることで、健常者でも楽しめるスポーツであることに気付けるようにする。 |
| 表現 | <ul style="list-style-type: none"> ○ボッチャ体験教室をする。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャの楽しさがわかった。 ・周りのサポートが大切なんだね。 ・選手の方の話からトレーニングだけでなく、普段の生活の様子も聞くことができたね。 ・プロの選手でも困っていることがあるんだね。 | <ul style="list-style-type: none"> ・競技を通して、簡単な動作でできることに気付けるようにするとともに、選手との交流からトレーニング内容や普段の生活の様子、周りのサポートの必要性についても触れられるようにする。 <p>○図表①② (発言・振り返りカード)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 事例のポイント① 実践例1を参照 </div> |
| 課題 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 課題④ 他の障害者スポーツ大会を調べてみよう </div> | |
| 情報 | <ul style="list-style-type: none"> ○デフリンピックについて調べる。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・デフリンピックも世界大会なんだね。 ・目が見えない人だけの大会みたいだよ。 ・夏・冬合わせて25種目の競技があるんだ。 ○スペシャルオリンピックスについて調べる。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・スペシャルオリンピックスは知的障害者の人の世界大会なんだね。 ・知的障害者はパラリンピックでは種目がほとんどなかったよね。 | <ul style="list-style-type: none"> ・デフリンピックとスペシャルオリンピックスを調べる際は、選手条件や競技、ルールなど、パラリンピックの学習を想起させながら情報を集めるように促す。 ・選手の話から、障害の種類を問わず、どの大会も目指すべき目標や生きがいとなっていることを理解できるようにする。 |
| 整理 | <ul style="list-style-type: none"> ○2つの大会を比較し、相違点と共通点を見付ける。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・どちらの大会もパラリンピックとは違って、一つの障害専門の大会だね。 ・パラリンピックよりも、よりルールを障害に合わせて設定しているよ。 ・難しいスポーツでも、ルールを障害に合わせてすることでたくさんのスポーツができるようになるんだね。 ・障害者の立場になって考えることが大切なんだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツ大会を比較することで、同じ競技でもルールが異なる点があり、それは障害に合わせて工夫しているという共通点に気付けるようにするとともに、ルールを障害に合わせてすることで誰もが同じスポーツを楽しめることを理解できるようにする。 <p>思・判・表③ (発言・ワークシート)</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 事例のポイント② 実践例2を参照 </div> |
| 課題 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 課題⑤ 障害者の生活に合わせた町の工夫について調べ、福祉マップを作ろう </div> | |
| 情報 | <ul style="list-style-type: none"> ○体験活動を通して障害のある人々の生活の様子について調べる。(14) <ul style="list-style-type: none"> ・車いすって少しの段差を上るのも大変なんだね。 ・自動販売機も上のほうが届かないよ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アイマスクや車いす等の体験活動を通して、障害者の視点を得るとともに、そこから感じる不安や恐怖、周りのサポートの大切さに気付けるようにする。 |

- ・アイマスクで前が見えないと、少し歩くだけでも本当に怖いね。
- ・障害を持っている人とのかかわり方にも注意が必要なのがわかったよ。
- ・障害者をサポートする動物もいるんだ。
- ・点字ブロックや白杖の意味がわかったよ。



- ・障害者が用いる道具や介助犬や盲導犬等にも視点を当て、児童の探究課題に沿って調べられるようにする。

○ 思・判・表①② 知・技①② 調②

(発言・振り返りカード)

事例のポイント① 実践例1を参照

- ・前時までの体験活動や調査して得た知識や視点を生かしながら、自分たちが生活する町の様子を写真を撮りながら調べられるようにする。
- ・町の中にある問題点・改善点だけでなく、今後の参考になる良い点についても気付けるよう促していく。

○ 思・判・表①② 知・技② (発言・地域マップ)

事例のポイント① 実践例1を参照

- ・どこに何があったのかをフィールドワークで得た情報を、問題点・改善点と良い点で色分けした付箋で整理できるようにする。

○ 思・判・表③ 知・技① 調② (発言・地域マップ)

編 P188 指導計画作成の留意事項②



- ・操作方法を確認し、作成時にはフィールドワークで撮った写真を用いることと、ピンの色を分けることを伝える。

○ 思・判・表④ 知・技③ 調③ (発言・福祉マップ)



事例のポイント③ 実践例3を参照

- ・福祉マップをよりみんなのものとするため充実させる目的として、SDGsの考え方、視点を紹介する。

整理


- フィールドワークをして障害者の視点から町を見つめてみる。(6)
 - ・点字ブロックを自転車がふさいでいるね。
 - ・音が出ない信号機も危ないよ。
 - ・歩道がせまくて車いすが通れない。
 - ・このお店は介助犬が入れるって書いてある。
 - ・駅の階段やエレベーターに点字を見つけたよ。
- 体験活動やフィールドワークで気付いたことを表や地図に整理する。(4)
 - ・国道にある歩道橋はスロープがなくて、車いすの人は渡れないよ。
 - ・バス停は縁石があって乗りづらい場所があったね。
 - ・新しくできたお店は入り口が広がって段差がなくなっていたよ。

表現

- 地図アプリを用いて、福祉マップを作成する。(4)
 - ・説明だけではなくて、写真を入れるとより分かりやすくなるね。
 - ・この前、学校の帰りに見たら、点字ブロックがきれいになっていたよ。
 - ・新しい情報もすぐに投稿できるね。
 - ・せっかく作ったこのマップを、できるだけ多くの人に見てもらいたいな。
 - ・スロープやエレベーターは障害者の人以外にも使えるし便利だよ。

課題

課題⑥ SDGsについて調べよう

| | | |
|-----------|--|--|
| <p>情報</p> | <p>○SDGsに掲げられている17の目標と、それぞれの事例について調べる。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界中みんなが幸せになるための目標なんだね。 ・埼玉版SDGs推進アプリS3(エスキューブ)を使用し、調べる。 ・大きく分けると3つの課題になっていることがわかったよ。 ・環境問題のことだけだと思った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの内容を事例とともに提示することで、児童にイメージをもたせ理解しやすくする。 ・アプリを利用し、各自で17の目標を調べられるようにする。 <p>○思・判・表② 知・扱①(発言・ワークシート)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">事例のポイント② 実践例2を参照</div> |
| <p>整理</p> | <p>○障害者に合わせた町づくりの様子とSDGsとの関連を見付ける。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標3には健康と福祉が掲げられているね。 ・目標11にはみんなが幸せを感じられる町づくりの視点があったよ。 ・みんなが幸せを感じられる町って障害者だけではなくて、それ以外の人も含まれるよね。 | <ul style="list-style-type: none"> ・前活動で作成した福祉マップを用いて見直す活動を通して、自分たちの町にもSDGsの視点が入り込められていることに気付くようにする。  |
| <p>課題</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題⑦ SDGsを意識して、福祉マップを思いやりマップに進化させよう</p> </div> | |
| <p>情報</p> | <p>○障害者以外の人にとって優しく住みやすい町について考える。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたち子供が安心できる町ってどんな町かなあ。 ・妊婦さんや赤ちゃんを育てている人もたくさんいるよね。 ・おじいちゃんやおばあちゃんが増えているって聞いたよ。 <p>○それぞれの立場に立って自分の生活する町を再調査する。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段生活している時には気にしないけど、探すと見付かるね。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分も含めた様々な人の立場を想起させたり提示したりすることによって、その立場を理解し、誰にとっても安心して住みやすい町を考えられるようにする。 <p>○思・判・表② 知・扱② 聞・取①(発言・振り返りカード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前活動の福祉マップ作りで得た視点を生かして、フィールドワークを行うよう促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">事例のポイント① 実践例1を参照</div> |
| <p>整理</p> | <p>○町の中において、それぞれの立場に立った問題点を整理し、改善点を考える。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーブミラーが割れていて見えないところがあった。これはみんなが困ると思う。 ・細くて電気がない道が多いよね。夜は怖いな。 ・暗いトンネルの壁も汚かったな。よく絵をかいたりすると雰囲気がよくなるって聞いたことがあるよ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・改善点は自分ができること、他に頼むことで分類させ、次の活動へつなげるよう意識付けを行う。 <p>○思・判・表③ 知・扱① 聞・取②(発言・地域マップ)</p> |
| <p>表現</p> | <p>○住みよい町づくりのために「思いやりマップ」として地図アプリに登録し周知していく。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の商店街に、QRコードをつけたポスターを貼ってもらおう。 ・学校だよりも地図のURLを載せてもらおう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・調査してきたことをそれぞれの立場で色分けして地図にするよう伝えるとともに、完成したものを担当の人に見てもらうことを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;">編 P188 指導計画作成の留意事項4)</div> <p>○思・判・表④ 知・扱② 聞・取③(発言・振り返りカード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童作成の思いやりマップ地図アプリのURLと考えた改善策を校内の児童会や市役所や自治会など関係機関に送り、後日回答をもらえるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">事例のポイント③ 実践例3を参照</div> |
| <p>表現</p> | <p>○これまでの活動を振り返る。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人の立場を考えて生活していきたいな。 ・これからも住みやすい町になるように、考えて生活したい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをこれからの生活にどのように生かしていきたいか考えることができるようにする。 <p>○知・扱②(発言・ノート)</p> |

7 実践例

【実践例1】体験活動の充実による多角的な視点の習熟

(1) 教師のねらい

市内・県内の福祉事務所や団体の方をゲストティーチャーとして来校していただき、各種体験活動を通して障害者の普段の生活についても触れられるようにする。また、バリアフリー体験にも参加し、障害のある人々・高齢者の方が感じている生活における問題や対応策についても考える機会を意図的に設ける。

(2) 体験活動の様子

いつもと同じ廊下でも、目が見えないだけでこんなに怖いのか。



アイマスク体験

目の前が真暗で、今自分がどこにいるのかが分からないから、今どこにいるのかなとかつまづかなどいろいろと不安でした。
だから目が見えない人は、いろいろ大変だろうなと思います。
だから白いつえで目かけを求めている人がいたら、こえをかけたいです。

自分一人ではとても越えられない…。
助けてくれて、ありがとうございます。



車いす体験

土やマットの上でタイヤをまわすと、重い。
くだりざかるとき速いスピードでからこわい

ルールもわかりやすいし、みんな楽しんでるね。



ボッチャ体験

私は、ボッチャ体験を通し、手が不自由な人は、サポートしてくれる人がいると分かりました。ボッチャは、ボールがおもくて、むずかしかったです。私たちは、体が不自由ではないから、たして、たけれど、車いすにのっている人たちは、思うように体がうごかせないから、私たちよりむずかしいのかなと思いました。

これだけ広いと、車椅子の人は助かるね。



フィールドワーク

それぞれの体験活動を通して、実際に道具を使う人や障害者の身になって考えることができる児童が増えた。体験活動や障害者との触れ合いを経ることで、「この時はどうするんだろう。」という視点にたった新たな疑問をもたせる効果もあり、次の活動へとつなげることができた。

【実践例2】福祉教育におけるSDGsを取り入れた単元計画

(1) 教師のねらい

単元当初から、SDGsの視点を意図的に取り入れることで、終盤に行われるSDGsの学習へつなげる。本実践においては、障害者スポーツを通し、「障害者へ合わせた（配慮した）ルール」から、「障害者へ合わせた（配慮した）町」、「全ての人の生活に合わせた（配慮した）町」へと学習を広げていく。福祉教育の一環であるため、SDGsの目標の3との関わりが強いが、障害のある方々だけでなく高齢者や外国籍の人々も含め、すべての人に目を向けた町づくりが理解できるよう、単元を計画する。

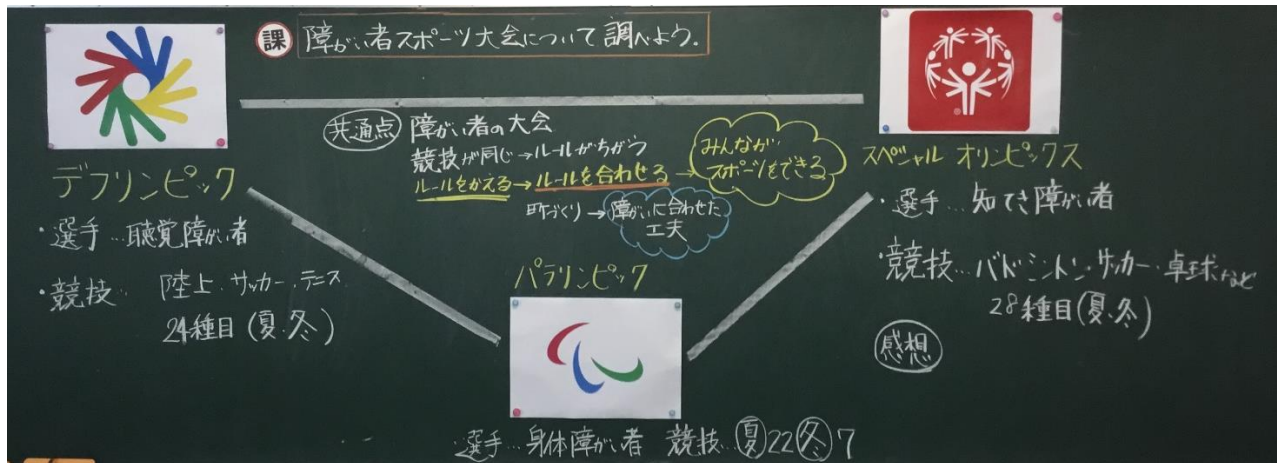
(2) 体験活動や情報を分析することによるSDGsの素地を養う活動

前半の「障害者スポーツ」と後半の「自分の町を見直す活動」との接続する時間である。この時間、3つの国際スポーツ大会を比較することで、児童は「競技は同じだがやり方が違う」ことに注目し、それぞれの障害に応じてルールを工夫していることに気付くことができた。また、「ルールを工夫すれば健常者でもどんな障害をもっている人でも楽しくスポーツをすることができる。」と発言する児童もいた。大事なことはルールを障害に合わせているということで、これは町の中にも障害に合わせて工夫があるのではないかと考え、誰もが幸せになることを目標に掲げるSDGsの視点を無自覚ながら意識する時間となった。

障害のある人のために合わせた競技が作られて、
社会は、みんなたすけあっていることがわかって
うれいです。

ルールをあわせることで色
々な人も、できると、わかりました。

←↑学習後の児童の感想



(3) SDGsの学習の様子



福祉に関する探究活動をマップ作りという形で表現した後、自分たちが作成した「福祉マップ」をさらに充実させたいという児童の声から、SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS (SDGs) の取組を紹介した。最初はSDGs という言葉は聞いたことがある児童であっても、その意味や、なぜそれが自分たちのマップの充実につながるのかは理解できていなかったため、新たな探究活動として学習が始まった。学習に際して、ICT 端末において埼玉県版SDGs アプリの「エスキューブ」を活用し学習を進めることで、17の目標は「人の命」「人々の生活」「地球環境」の3つのテーマになっていること、また今までの学習は目標3「すべての人に健康と福祉を」という視点が大きく関係していたことだけでなく、目標11「住み続けられるまちづくりを」の視点へ発展させられることに気付くことができた。SDGs の掲げる「みんなの幸せ」を意識したことにより、今までの「障害者の立場」という視点から、「様々な人の立場」という視点へと視野を広げ、それを表現するマップ作りへと学習を接続する授業となった。



わたしたちにできることもたくさんあるんだ。



エスキューブを活用する様子

(4) 総合的な学習の時間とSDGs 目標との関連

本実践において、福祉教育の視点からSDGs 学習を意識したとき、17の目標の中で特に関連があるものは目標3「すべての人に健康と福祉を」であると考えた。しかし、学習が進むにつれ、教師の声かけや、児童の思考の広がりにより、SDGs の視点も広がりをもつようになっていった。結果として本実践では、目標3にとどまらず、障害者・高齢者だけでなく、「全ての人々が平等で快適に生活できる町にしたい。」という児童の思考の広がりからSDGs 目標の10「人や国の不平等をなくそう」や11「住み続けられるまちづくり」を関連付けられた学習へと変化していった。



本実践のようにSDGs の掲げる1つ1つの目標は独立しているものではなく、互いに関連し合っているものも多いため、学習の進め方によって児童の思考が広がり、様々なSDGs 目標が関連付いていくことがわかった。

そこで、学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」P77 に示された探究課題の例をもとに、主として関わりのありそうなSDGs 目標を考えてみた。この目標例は児童の思考や教師の働きかけ、単元計画によって流動的になるものであり、SDGs の視点を限定するものではない。むしろ柔軟に幅をもって取り入れていくことが重要だと感じた。

| 三つの課題 | 探究課題の例 | 主として関わりのありそうなSDGs 目標例 |
|-------------------------|---------------------------------------|-----------------------|
| 横断的・総合的な課題 (現代的な諸課題) | 地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観 (国際理解) | 10 など |
| | 情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会の変化 (情報) | 9 など |
| | 身近な自然環境とそこに起きている環境問題 (環境) | 12・13・14・15 など |
| | 身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々 (福祉) | 3・10・11 など |
| | 毎日の健康な生活とストレスのある社会 (健康) | 3 など |
| | 自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題 (資源エネルギー) | 7 など |
| | 安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々 (安全) | 11 など |
| | 食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者 (食) | 1・2・12・14 など |
| | 科学技術の進歩と自分たちの暮らしの変化 (科学技術) など | 9 など |
| 地域や学校の特色に応じた課題 | 町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織 (町づくり) | 11 など |
| | 地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 (伝統文化) | |
| | 商店町の再生に向けて努力する人々と地域社会 (地域経済) | 11 など |
| | 防災のための安全な町づくりとその取組 (防災) など | 11 など |
| 児童の興味・関心に基づく課題 | 実社会で働く人々の姿と自己の将来 (キャリア) | 8 など |
| | ものづくりの面白さや工夫と生活の発展 (ものづくり) | 9・12 など |
| | 生命現象の神秘や不思議さと、そのすばらしさ (生命) など | 1・2・3 など |

【実践例3】ICTを活用し、いつでもどこでも確認できる思いやりマップづくり

(1) 教師のねらい

高齢者や障害のある方々にとって有益な情報を、時と場所を選ばずにすぐに見ることができるように、ブラウザ上のアプリを利用して福祉マップを作成する。細かい字が読みにくい人や、日本語が読めない人でも内容が分かるように、写真を表示できるように事前のフィールドワーク時に撮影しまとめていく。

また、これらの情報を地域に発信することで、福祉の視点を広げ、町が抱える課題を改善しようとする動きへとつなげることが期待できる。

さらに、SDGs目標の10・11の視点を加え、障害者や高齢者のみならず、誰もが平等で住みやすい町というテーマで、再度フィールドワークを行う。その結果、今存在している町が抱える課題を見付け、住みよい町にするため、周知できる「思いやりマップ」作りを行う。

(2) ブラウザアプリを利用したマップ作りの様子

ICT端末を使用し、フィールドワークをしたとき集めた情報や写真を用いて共同編集を行った。デジタル付箋の色を変えることができることに気付いた児童のアイデアで、安心できるポイントなのか、危険なポイントなのかを瞬時に判断できるように色分けをする工夫をして作成することができた。

その後、SDGsの学習を挟むことで、「福祉マップ」の充実を図ることを行った。「誰にとっても住みやすい町」という考えから、児童は「障害者」「高齢者」に加え、「妊婦」「小さい子供」「外国人」という新たな視点を持ち、再調査を行った。2回目のフィールドワークでは授乳室や多言語の看板等、情報を集め、マップに表現していた。その際、視点ごとにマップ上のピンの色を変え、誰に向けての情報なのか、相手意識をもちながら表現活動を行うことができた。

